

◇ 格安中古パソコンで Linux を試すの奮闘記

大槻伸次

昨年、本屋さんのパソコン雑誌のコーナーを覗いていたら、日経 BP 社のパソコン雑誌「Linux」2018年7月号（第1付録 ubuntu18.4LTS の使い方が全部わかる本、第2付録として「ubuntu18.04 LTS 日本語 Remix」の DVD-ROM が添付）が目にとまり迷わず購入した。というのは、以前“古い PC を強化して Linux で復活”という雑誌のキャッチフレーズに魅かれこの雑誌を購入し、サポート切れで廃棄寸前のノートパソコンに入れ、「ubuntu」（Linux os）試した事があったからである。

当時の雑誌のキャッチフレーズとして、まず第一に個人で楽しむレベルならずとも無料で使える（無償でアップグレードできる）。二つ目は、古いパソコンでも動く可能性がある（軽量 Linux が幾つか用意されている）。そこで、数千円の中古パソコンを再生して使いこなしている人が沢山いる。三つめは、とても用途が広いということだそうです。例えば、パソコンだけでなく、家電製品の制御から大型サーバーやクラウド迄幅広く使われているそうです。こんな良いこと尽くめのキャッチフレーズに惚れ込んで、ど素人（駄目で元々）の小生が挑んでみることにしたが、ubuntu（Os）の入手はどうすればよいのかネットでいろいろ調べたところ、複数の大学のサイトから ubuntu の iso ファイルを無料でダウンロードできることがわかった。そこで、早速試したところあっという間にダウンロードが完了、そこで当方既にダウンロードしてあったアプリ「DVD Decrypter」で DVD 化し、ノートパソコンに入れて立ち上げてみたところ、以前の OS はどうするか聞いてきたので消去する、を、選択するとあっという間に導入が開始され幾つかのキー操作であっという間に完了した。（パソコンの電源を入れたら、ファンクションキーの F2 キーをチョコチョコ押すと BIOS 画面になる。なったら起動順序を CD・DVD ドライブからに設定）そしてハラハラドキドキしながらノートパソコンの電源をオンすると、何の問題もなく立ち上がった。

しかし、普段使い慣れている Windows パソコンと感覚が全く違うのでしばらくは試行錯誤しながら弄繰り回し、ホームページの閲覧などは難なく行うことができたが、動画の動きが全くぎこちなく実用には向かないと感じた。とくに AbemaTV は静止画みたいなもので時々写っても画質が超悪いが、OS のせいではなくノートパソコンの CPU は「セレロン 520M」（SingleCore）で処理が間に合わないのだろう。

また、最後まで旨くいかなかったのは Libre office（ubuntu を入れると色んなアプリが付属してくる）の Writer の「かな入力」が何としてもできなかったことや Wi-Fi 接続が NG になったことだろう。いろいろ弄繰り回した結果 ubuntu とはこんな感じなのかと納得は出来た。ところが、パソコンの詳細を確認したところ、何とこのノートパソコンは 32 ビット仕様だと思っていたが、入れた ubuntu は 62 ビットと記されていたのには驚いた。こんなことがありえるのか私の勘違いなのか分からないが、動作しているのは確かだった。最後に、「Linux」7月号の付録である「ubuntu18.04 LTS」を購入したのだから up デートしてみたところ、何の問題もなく導入できたように思われたが、何としても立ち上がらないので諦めた。

〔LTS とはロング・ターム・サポートのことで 5 年間サポートされる。前モデルは ubuntu16.04LTS。他に、半年毎にモデルチェンジするタイプがあり、此のタイプは

2019年7月現在 ubuntu19.04、半年後は ubuntu19.10 となる。]

このような結果、少しは益しのパソコンで立ち上げてみたいと思って色々調べてみたところ、CDやUSB等にOSをいれて立ち上げる、ライブ起動やデュアルブートという方法もあるとあったが、ネットで調べると賛否両論ありで、心配だからこの方法は止めにした。そんなことを思いながら1年が経過した。ところが、ある日ふらっと「〇〇〇〇-Off」という店を目的もなく覗いていたら、中古電器品の棚のコーナーに複数台の中古モニターが並べられていたが、そのなかの一台をよく観察したらなんとHP社（ヒューレット・パカード社）の一体型パソコンだったのである。そこで、頭の中にubuntuのことが閃き、興味が沸いた。そこで型式を詳しく調べたところ「HP COMPAQ 6000 PRO」（MADE IN TOKYOと前面に大きなラベルが貼付）で、値段はウン千円で超安なので買おうと思ったが、動くのか心配になりそのまま家に帰った。

値札にはBIOSはOKとあったが、モニターには薄い傷があり全体的に煙草のヤニ汚れがありで、キーボードとHDDは付属せず、以前はWindows7だったとあった。

詳しく観察したところ、煙草のヤニで相当汚れているようで、おそらく工場の事務所等で使っていたものだろう。家に帰ってネットで仕様を詳しく調べてみたところ、HP社のビジネスパソコンで、CPUはCORE 2 DUO 64ビット仕様、メモリ4GB、21.5吋フルHD高精細スクリーンの一体型パソコンということで、まずまずの性能と理解した。以前にも、このような店に足を運びパソコンコーナーを覗いてはいたが、ウン千円（夫婦2人の昼食代ほど）でこのような中古パソコンは見たことがなかったので、格安の勉強代と思って買うことに決めた。（中古品は動かなかった場合、一週間以内であれば返金してくれる）家に持ち帰り、掃除等は後回しにして電源を入れてみたところBIOSは立ち上がるも値札に記載通りNO HDDとメッセージが出た。そこで、以前外部増設メモリとして使おうと格安（ヤフオク780円）で買っておいた中古のHDD（SATA・500GB）を取り付けることにした。キーボードはPS2接続だったので、以前タダ同然で購入しておいた中古のものを使う事にしたが、なんとHP社製だったので驚いた。更にPS2接続の光学マウスが、新品同様に108円だった。

準備が整ってよいよ、ケース内にHDDを取り付けるため背面（一体型）を開けようとしたが、ビス一つない止め方なのでどうして外すのか暫らく考え込んでしまった。そこで片っ端からネットで探したら、「HPカスタマー・ケア・ナレッジベース」なるところに辿り着きヒントになるものがあったので、マイナスドライバーでケースをこじったら何とか外すことができた。そこで、HDDが外されているのを確認し手持ちの中古HDDを取り付けようとしたが、待てよとなった。というのは、この中古HDDはフォーマットが出来ているのか心配になったのである。そこでパソコンにつないで調べたところ「NTFSフォーマット済みと認識」だったので一安心した。ところが、HDDの右端の4ピンの端子がどうなるのか見当がつかないので先に進めず四苦八苦した。いろいろ調べた結果パラレル接続のHDDは、ピンのジャンパー接続があるが、シリアルHDDはその必要がないという情報が得られたので4ピン空きのまま本体に組み込むことにした。一応全部の作業を終えたので、電源を入れたところ問題ないようだった。（BIOSにHDDの性能をチェックするDPSセルフチェック項目があったので、やってみたらOKと出た）そこで、いよいよ今年の「Linux」7月号

付録の「ubuntu18.04 LTS」の DVD-ROM で立ち上げようとしたが、その前に BIOS を立ち上げ、ブートの順番を指定する必要があるというので、電源を入れてから直ぐにファンクションキーの F9 を押す。そこで、CD・DVD にカーソルを合わせ BIOS 指定が終る。早速ドライブに DVD-ROM を入れてみたが何の反応（緑色の LED が数秒点滅）もなく NO DISK と出るばかりで、ドライブがおかしいのか、何度繰り返しても同じだった。そこで、あの HDD 端子が空きのままで本当によかったのか不味かったのか、色々調べたが判らずじまいで頭の痛い 1 日が経過してしまったのである。

翌日、再度「HP カスタマー・ケア・ナレッジベース」にいき色々調べたが、ヒントになるものがなくもう一度初心に帰って、このパソコンの諸元を調べていたらタイプによって CD・DVD ドライブに、DVD に対応していないものがあることが分かった。DVD に対応していないものであれば読み込めないのも然りだと思った。

そこで、パソコンの BIOS を立ち上げ諸元を調べたら、CD・DVD〇〇ドライブと型式名らしいものが書かれていたので DVD に対応していると判断した。

ところが、何度 Ubuntu OS の読み込みを試してもやはり駄目だったので、いよいよ返品かと思ったが、その前に外部接続の CD・DVD ドライブがあったので USB 接続し試してみところ、なんと一気に読み込みを始めたのである。やっぱり CD・DVD ドライブに原因有であり DVD には対応していなかったのである。ということは BIOS の記述が間違っていたのか、私自身の勘違いかそういうものなのかよく判らなかった。

何はともあれ、外部接続ドライブからグググという音とドライブの LED が点滅しているので読み込んでいるのは確かで、嬉しくなってしまった。インストールの最後に日本語と日本時間の指定、パスワードの設定があり 30 分位で終わった。そして、改めて立ち上げてみると Ubuntu 特有の小豆色の画面が出現、以前ノートパソコンで立ち上げた時と大差ない画面だった。ウェブ・ブラウザは以前と同じ Firefox だった。

また、ノートパソコンでは実用にならなかった動画の You Tube、Abema Tv、Tver 等も難なく動き高精細で見られた。Libre Office の Writer については、ちゃんと、かなモードが動き何の問題もなく使えそうである。そして立ち上げ当初は有線 Lan に接続していたが、無線ラン（ドライバーが Linux に対応しているか）が使えるのか調べたところ何の問題もなく接続できた。その他、詳細については立ち上げたばかりで判らないが、第 1 付録「ubuntu18.04LTS の使い方が全部わかる本」を読んで、どんなことができるのか暫らくは遊べるだろう。（2019/7/17 記）

★HP CONPAQ 6000 PRO パソコン全容と Ubuntu 画面。小豆色のデスクトップ画面と左側縦に一系列にアイコンが並んでいる。シャットダウンは画面上黒帯の右端の電源ボタンをクリックする。Windows10 の様なスタートボタン（左下）はない。左下をクリックするとダウンロードされたアプリケーション一覧が表示される。

